

平成29年度「地域と共にある学校づくり」リーダー研修会実施報告書

- 1 日時 平成29年8月24日（木） 13:00～15:40
- 2 会場 奈良県産業会館 大ホール
- 3 参加者 県内公立学校・園の管理職、地域連携担当教員、地域コーディネーター、市町村教育委員会担当者 計 204名
- 4 内容
13:00～13:05 開会
13:05～13:55 パネルディスカッションⅠ「地域と共にある学校づくり～支援から協働へ～」
【パネリスト】河内長野市立美加の台小学校元校長 藤井 学
美加の台中学校区学校支援コーディネーター、
文部科学省CSマイスター 大谷裕美子
【コーディネーター】奈良県学校コミュニティ・アドバイザー、
文部科学省CSマイスター 高木 和久
13:55～14:05 県からの説明「地域と共にある学校づくり」
人権・地域教育課 地域教育係 指導主事 畑守 伸昭
14:15～14:30 パネルディスカッションⅡ
14:30～15:40 講演「子どもの生活・教育課題を改善するツールはCSで」講師 高木 和久
※CS＝コミュニティ・スクールの略として表記。

5 パネルディスカッションⅠ概要

●自己紹介とCS設置の経緯について

- ・同校の教頭と校長として勤めた。学校開放が盛んに行われていた時期に学校支援地域本部事業からCSへと移行した。河内長野市の方針で設置した。（藤井）
- ・元PTA役員、青少年指導員を経て、コーディネーターになった。学校支援地域本部事業で十分という思いがあり、CSによって自分たちが要らなくなったのではと感じることもあった。（大谷）



●CSを定着させていく経過について

- ・CSの会議に5人の教員が入ってスタート。「今までどおりで大丈夫。」という気持ちだが「よりよいものにしよう。」と変化し、責任を持って取り組むようになった結果、メンバーが成果を気にするようになった。（藤井）
- ・“仕掛け、きっかけ、声かけ”を意識した。CSのメリットを研修で伝え、自分たちも学校づくりに関わっていることを実感してもらえるようなきっかけづくりをしていた。（大谷）

6 パネルディスカッションⅡ概要（質問シートの回答）

- 支援事業とCSの違いについての質問：自転車に例えるのがわかりやすい。学校運営協議会は前輪、校長がハンドル、支援本部が後輪、コーディネーターがペダルの役割を持つ。（大谷）
- CSの会議の回数についての質問：最初は全体の会議を年6回実施。当初は方向性に議論が集中したが、次第に具体的な活動内容の議論へと変わっていった。（藤井）

7 講演概要

- ・CSは一緒になって子どもを育てるが、支援本部は学校のニーズに合わせてボランティアに手伝ってもらうもの。
- ・SPDCAを示した。Standingとして、どんな子どもを育てていくか熟議を通じて長い時間をかけて互いに積み上げていく事が必要。
- ・少し重ねて協働、活動する中で子どもを育てる。自分が参画して「自分の町の学校」というイメージを持つことが一緒に取り組む大きなきっかけとなる。



8 感想

- ・コミュニティ・スクールとパートナーシップ事業の違いが理解できた。コミュニティ・スクールを立ち上げるには、きちりとした組織づくりがまず大切だと感じた。
- ・運営協議会で大切なこと、校区の担い手である”人材（リーダー）”を育てること、そして子どもが主役であることがよくわかりました。
- ・パネリストの体験談からの話だったのでとてもイメージをふくらませやすかった。

